

かわらだ ひろこ

川原田弘子 ニュース

2018年1月発行

神戸アイセンター病院は、中央市民病院と南館（旧・先端医療センター病院）の間に開設されました。

神戸アイセンターオープン！！

2017年末、ポートアイランドに、「神戸アイセンター」がオープンしました。神戸アイセンターは、眼科の中核病院として、標準治療から高度先進医療までを提供する「神戸アイセンター病院」の他に、治療だけに留まらず視覚に障がいの残ってしまった患者さんのリハビリテーションや社会復帰を支援する施設が併設されています。また、「再生医療分野を中心に、日本・神戸において最新の医学研究成果や医療技術を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて提供する」ことが謳われており、5F6Fには、理化学研究所や先端医療振興財団の研究機関・細胞培養施設も設置され、基礎研究、臨床応用、治療、ロービジョンケア、生活支援までをトータルで対応するまさに「眼」のワンストップセンターとしてスタートしました。記念式典に出席後、内覧会における見学と、シンポジウムの拝聴をしてまいりましたので、ご報告いたします。

1 「神戸アイセンター」へのアクセス



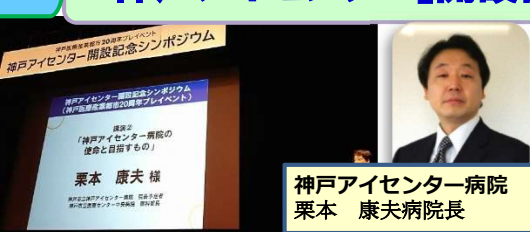
ポートライナー「医療センター」駅で降りて、中央市民病院に行く手前のビルです。

図一 神戸アイセンターのマップ

▽7F	機械室・電気室	
▽6F	病院(管理)	細胞培養施設(CPC)
▽5F	病院(医局)	研究所
▽4F	病院(手術・病棟)	
▽3F	病院(外来・検査)	
▽2F	病院(薬剤・事務)	ロービジョンケア 玄関 歩行者デッキ
▽1F	病院(栄養)	駐車場

図二 フロアマップ

2 「神戸アイセンター」開設記念シンポジウム

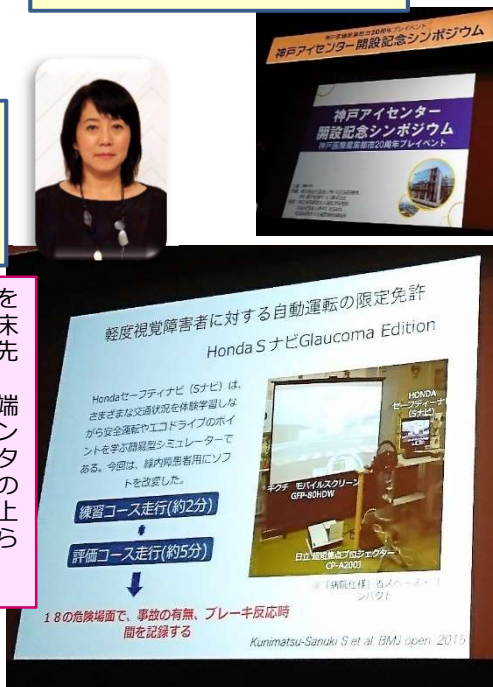


神戸アイセンター病院 栗本 康夫病院長

理化学研究所
網膜再生医療研究開発プロジェクト
プロジェクトリーダー
高橋政代博士
(神戸アイセンター病院
非常勤医師 兼務)

理研の研究員として、iPS細胞を用いた加齢黄斑変性の再生医療の臨床研究を進めていらっしゃる高橋政代先生も講演されました。臨床医ご出身の高橋先生は、最先端の研究だけではなく、眼科患者をワンストップでフォローできるアイセンター設立への思いが強く、研究の内容のみでなく、視覚障がい者の生活を向上させる取り組みについても熱心に語られていたことが印象的でした。

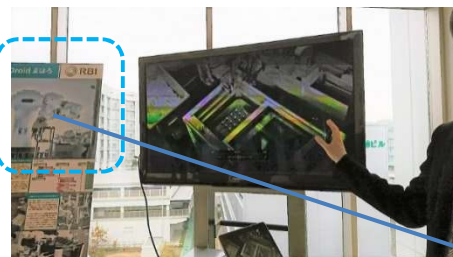
中央市民病院眼科部長の栗本先生が神戸アイセンター病院の病院長に就任され、病院の概要についてプレゼンされました。栗本先生は、高橋先生の臨床研究における手術をご担当されています。



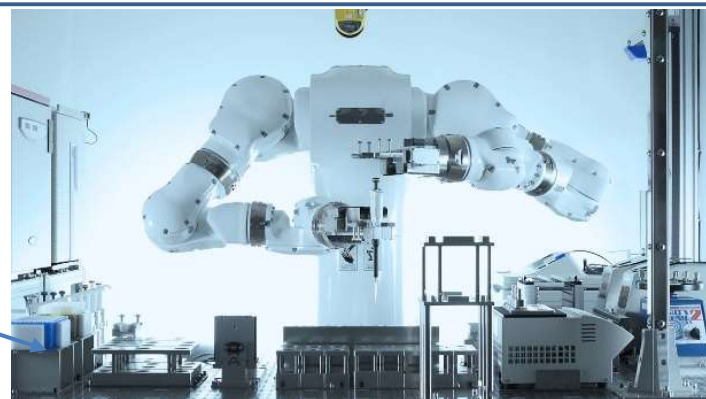
3 「神戸アイセンター」研究施設(5F)、細胞培養施設(6F)



理化学研究所の先生から、将来的に神戸アイセンターに導入される予定のRBI社のライフサイエンス研究に特化したロボット LabDroid「まほろ」についての紹介がありました。廊下には、小学生などが楽しみながら見学できるよう、プロジェクションマッピングが上映できる設備になっていました。



図三 プロジェクションマップされた廊下(6F)



図四 LabDroid まほろ (写真提供 RBI 社)

～汎用ヒト型ロボット「LabDroid まほろ」の特徴～
○従来の6軸構造のロボットと比べて二の腕をひねる関節軸をひとつ多く持っており、人間と同じように器用で滑らかに動くことができます。
○熟練の研究者の手技をミリメートル単位・秒単位で再現することが可能です。
○従来の自動化ロボットは分注や攪拌といったひとつひとつの作業しかできないものがほとんどでしたが、LabDroid「まほろ」は研究者の厳しい要求に応えられる汎用性・拡張性を備えています。

4 「神戸アイセンター病院」



図五 手術室
(手前のモニターは、手術を補助する最新鋭の映像システム NGENUITY® 3D ビジュアルシステム)



図六 各検査室



図七 各病室
(6つの個室と6つの4床部屋の計30室)

5 ロービジョンケア「ビジョンパーク」



NPO 法人モンキーマジックによるクライミングのデモンストレーション

Vision Park の目的
●情報コンシェルジュによる情報発信・情報収集
●セミナー開催
●社会の中心となり、中継点となるハブ機能(橋渡し) → 視覚障害に対するイメージの改革
●他機関・団体との連携協働による相談・支援活動

ロービジョンケア施設「ビジョンパーク」について
(ホームページから抜粋)
ビジョンパークは、リハビリ、展示スペース、セミナーや就業支援を行うホールを兼ねた空間ですが、眼科を訪れる患者さんやそのご家族だけでなく、見えない・見えにくいことでお困りの方、一般市民の方、企業の方、医療、福祉、教育など様々な専門分野の方が集うことができる場所です。

～高橋先生のメッセージより～

「20年以上にわたり行ってきた網膜の再生医療研究が、網膜色素上皮細胞の臨床研究という形で一歩を踏み出し、今後も視細胞移植などさらに研究を継続していきます。同時に、私が再生医療と同じくらい重要だと考えているのがロービジョンケアです。ロービジョンケアは、視覚障害者の就労・就学、そして生活の質を一変させる可能性があり、その効果は治療に匹敵するものだと考えています。」